2023 年度　札幌市円山動物園×気候変動教育 project／ふせんまとめ

◆第２回で見えた方向性（A 班、B 班共通＋事務局）

１.生息域の状況を伝える（職員の現地派遣／レポート、展示への反映）
２.動物園に楽しみに来ているひと・気候変動に関心がないひとをターゲットに
３.スタンプラリー（カードラリー）／クイズラリー
４.視覚＋五感のうちもうひとつ（触覚、嗅覚、温度も）
５.生息地保護の貢献につなげたい
６.フェアトレード、エシカル消費
（以下、下記参照２より追加の要素）
７.学校教育との接続
⇒ex.副読本への反映／継続的に授業カリキュラムに組み込む／教育旅行
７'.LABO　実験、情報発信等の場としての方向性
８.展示の更新
９.総合窓口（環境情報のハブ／マニュアル、紹介リスト）→単なる相談受付ではなく、一段上の連携
10.来年の夏を見越した園内の適応策
（ex.植樹／風の通り道を作る／雪を集め保管／アザラシの日よけシェードを、動物園中に）
11.札幌市の取り組みのショーウィンドウ（ex.ゼロカーボン上映会、気候市民会議）

◇参照 1

◆双方に共通はしていないが大事な点
・学ぶ側が主体になれる
・ワークシート、現状あまり使われていない
・“北海道”、地元を伝える
・陸の生き物より海の生き物の方が影響が大きい
・副読本　配って終わりではない
・自販機ではなく、動物園マイボトルを作り、完全にそちらの使用を推奨（コカ・コーラ社との協働）
・売店、飲食店の廃プラ宣言
・エコビレッジのように、動物園全体でメッセージを伝える
・気候変動教育のリーチしにくい、20 代～30 代　若い子育て世代を対象に
・親子イベント、人員が必要⇒体制が整えば可能
・ご両親がハンズフリーでいられる環境作り（ex.まるっぱ広場にてお子さんのみで遊べる）